

下川町地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

下川町は、北海道の北部にあり、北見山脈と天塩山脈の間に位置し、その面積は644.20km²を有し、地域の東部からほぼ中央部を名寄川が西に貫流しており、気候は大陸の様相を呈し、夏期は比較的高温であるが、冬期間は著しく温度が低下し、その差は60度に及ぶこともある地域であり、町の面積の90%が森林地帯です。人口減少や車社会の到来により、公共交通の利用者が減少傾向にあり、運営は年々厳しさが増している状況にあります。その一方で高齢化率は4割を超え、交通弱者や交通空白地帯に住居する住民のための移動手段の確保をする必要性があります。

また、主要幹線である国道239号線が東西に長く走り、この幹線沿いに集落が多く張り付いていることから、集落間の距離を縮めるため地域住民の足としての町営バスの再編と乗合タクシーの導入を行っており、地域間幹線系統下川線・興部線に接続するフィーダー系統として、生活交通手段の確保を図っているところであります。利用者の確保と住民ニーズに対応した輸送形態を維持していくため、アンケート調査を実施して利用区域からの要望に近い公共交通を目指していくことで、生活の利便性向上の一端を担うことが可能となります。

生活交通確保維持改善計画の目標

[地域公共交通の満足度]

2系統、目標値 良いともタクシー 98.0% 班溪線 100%

[利用人数]

◆良いともタクシー 合計 目標値 8,507人/年
・班溪 目標値 567人/年 ・溪和 目標値 63人/年
・北町 目標値 155人/年 ・まちなか 目標値 6,698人/年
・上名寄 目標値 385人/年
・一の橋 二の橋 三の橋 目標値 639人/年
◆班溪線 目標値 4,978人/年

令和4年度事業概要

町営バス再編に伴う予約型乗合タクシー導入

◆良いともタクシー（6区域）

①班溪 ②溪和 ③北町 ④まちなか（南町・西町・緑町・旭町・錦町・幸町・共栄町）⑤上名寄 ⑥一の橋・二の橋・三の橋
（平日・土曜日～5便、日曜日・祝日～3便／料金：⑥の内一の橋500円、⑤及び⑥の内二の橋400円、①②及び⑥の内三の橋300円、③④200円）※小学生半額、未就学児は無料

◆班溪線（平日・土曜日～5便、日曜日～4便／料金：まちなか乗車200円、自由乗降区間100円）※小学生半額、未就学児は無料

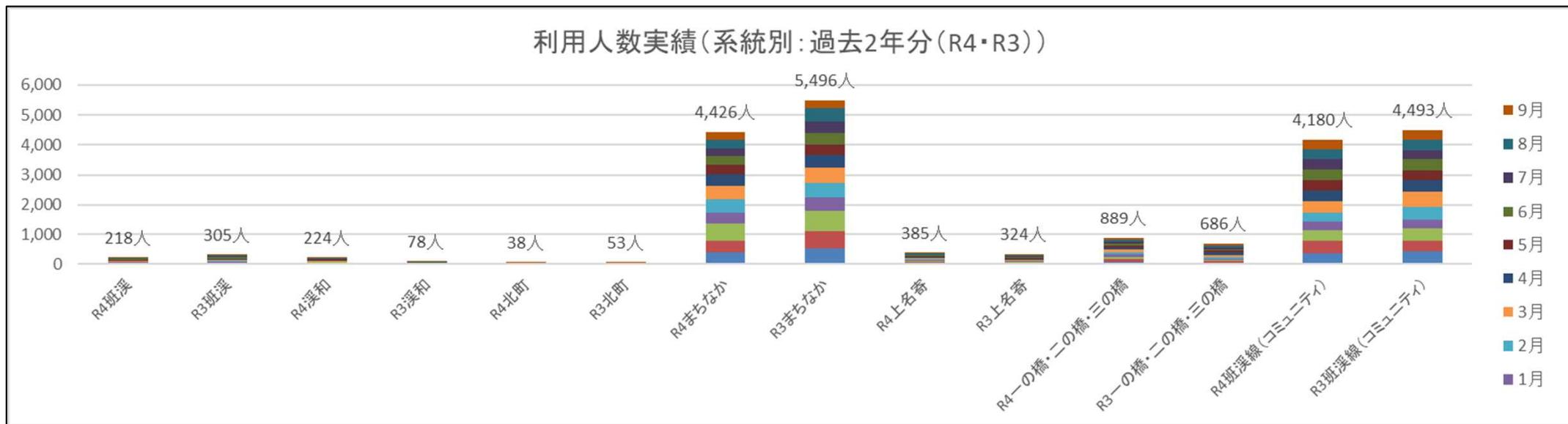
地域公共交通の現況

- ・名士バス 2路線
（JR名寄本線廃止に伴う代替バス及び既存バス）
- ・コミュニティバス
（班溪線）まちなか（南町、西町、緑町、旭町、錦町、幸町、共栄町）

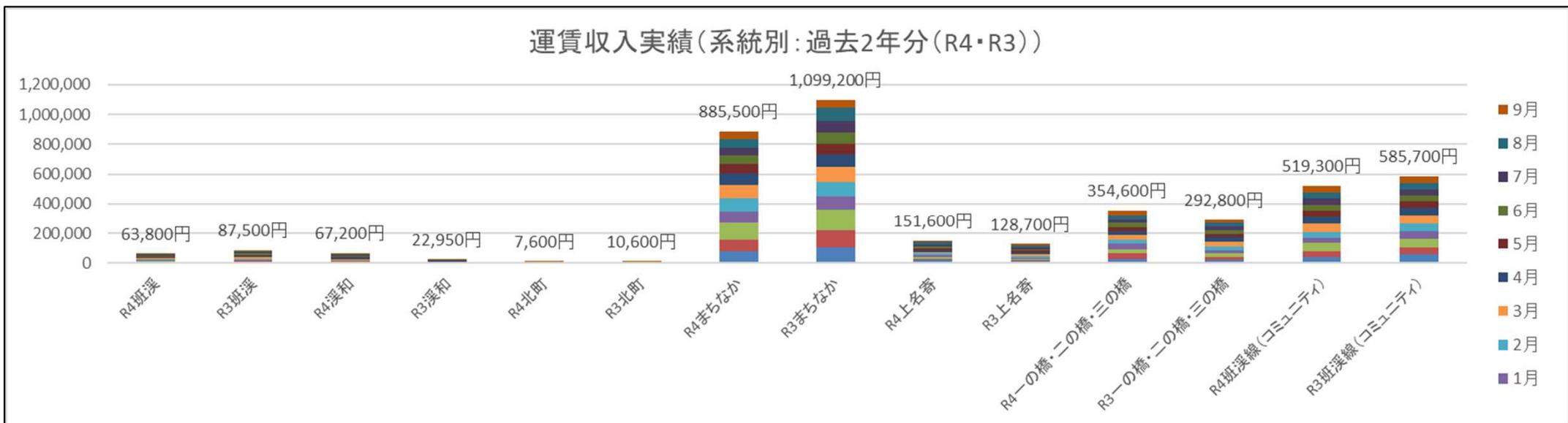
協議会開催状況

- ◆令和3年6月9日 第1回地域公共交通会議(書面)の開催
 - ・生活サポート地域公共交通再編後の利用実績の報告
 - ・令和4年度生活交通確保維持改善事業計画(地域内フィーダー系統)の承認
- ◆令和4年1月11日 第2回地域公共交通会議(書面)の開催
 - ・令和3年度地域公共交通確保維持改善事業(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)」に係る事業評価の内容について
- ◆令和4年6月7日 第1回地域公共交通会議(書面)の開催
 - ・生活サポート地域公共交通再編後の利用実績の報告
 - ・令和5年度生活交通確保維持改善事業計画(地域内フィーダー系統)の承認
- ◆令和4年12月26日 第2回地域公共交通会議(書面)の開催
 - ・「令和4年度地域公共交通確保維持改善事業(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)」に係る事業評価の内容について

3) 利用実績



4) 収入実績



5) 事業実施の適切性

計画に位置づけられたとおりに実施した。

6) 目標・効果達成状況

[地域公共交通の満足度]

良いともタクシーは98.0%、班溪線は100%の目標値のところ、実績は、良いともタクシーで93.4%、班溪線で100.0%であった。

[利用人数]

◆良いともタクシー

合計	目標値8,507人/年	→	実績6,180人/年(72.6%)
①班溪	目標値567人/年	→	実績218人/年(38.4%)
②溪和	目標値63人/年	→	実績224人/年(355.6%)
③北町	目標値155人/年	→	実績38人/年(24.5%)
④まちなか	目標値6,698人/年	→	実績4,426人/年(66.1%)
⑤上名寄	目標値385人/年	→	実績385人/年(100.0%)
⑥一の橋・二の橋・三の橋			

◆班溪線	目標値639人/年	→	実績889人/年(139.1%)
	目標値4,978人/年	→	実績4,180人/年(84.0%)

[効果]

交通弱者や交通空白地帯を解消するとともに、高齢者等の移動負担を軽減し、日常生活に必要な生活の足を確保することができ、一定程度の成果は達成できたものと考えている。

しかし、本年度も昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染防止のための外出自粛の影響により、地域によっては利用人数が目標値を大きく下回る結果となっている。

7) 事業の今後の改善点

人口減少による利用者数の減少は今後も懸念されるが、65歳以上人口比率が4割を超え、高齢化に伴う免許証の返納などにより、今後も公共交通の必要性は高い地域と見込まれる。また、アンケート調査による地域公共交通の満足度は概ね高く、地域の公共交通としての役割は一定程度果たしている。

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響による利用者の減少が大きく、まん延防止等重点措置の解除後も利用は低迷しており、今後もその影響を見極める必要がある。

今後も効率的な運行ルートの設定と国庫補助金の活用により安定的な運行を目指していく。

8) 地方運輸局における二次評価結果

- 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- 依然として新型コロナウイルス感染症の影響により目標を達成することができなかったが、「溪和」地域については、大幅に利用人数が増えており、今後もアンケート調査の実施や効率的な運行ルートの設定など、引き続き利用促進の取組を期待する。
- 持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の回線につながる目標を設定することもご検討いただくとともに、今後も継続的に維持していくためにも、地域公共交通計画を策定することを強く期待する。